

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

ト

男子 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
高水高等学校	22	13 - 9	21	浦添商業高等学校
		9 - 12		
		-		
		-		
		-		
		7mTC		

2回戦を大差で突破した高水と初出場ながらも連勝し勝ち上がってきた浦添商業との対戦となった。

試合は高水が2点を先取し始まった。序盤は高水のボールコントロールの時間が多い中、シュート

ミスにも助けられ、浦添商業も食い下がった。10分過ぎ、浦添商業は高水のキャプテン横田にマン

ツーマンDFを仕掛けるが、徐々に高水は点差を広げていく。15分過ぎには高水2番橋高が早くも

2回目の退場となったことを機に、浦添商業が連続得点で何とか食らいつく。対する高水は、中盤以

降は浦添商業のDFを多彩なパス回しで翻弄し、4番江本、キャプテン横田を中心に着実に点を取り、

点差を縮めさせない。終盤は浦添商業もミドルシュートを放つがゴールに嫌われ前半を折り返した。

後半開始直後、浦添商業11番我那覇が先制点を取ってから怒涛の5連続得点で早くも逆転に成功し

た。たまらず高水はタイムアウトを要求し、前半同様勢いを取り戻し始めた。しかし、浦添商業もす

ぐに切り替え、連続得点でリードを高水に譲らない。中盤は浦添商業のDFに高水は攻めあぐねたが、

終盤になると浦添商業に退場者が頻発し、4番江本の連続得点で逆転に成功し接戦をものにした。

2017年 3月 26日

記載者氏名 藤岡 秀行

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

チ

男子 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 B コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名															
佼成学園女子高等学校	25	<table border="0"> <tr><td>12</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>13</td><td>—</td><td>7</td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>—</td><td></td><td></td></tr> </table>	12	—	11	13	—	7	—			—			—			18	四日市商業高等学校
12	—	11																	
13	—	7																	
—																			
—																			
—																			
		7mTC																	

選抜大会3日目、3回戦第4試合は、10年連続出場の佼成学園女子と2回戦第2シードの大分に勝利した県立四日市商業との一戦。スローオフ直後から両チームの激しい点の取り合いとなるが、どちらもスピードあるパス回しにDFがしっかりと守る展開となる。前半10分で4対3と四日市商がリードする。佼成のシュートに何度も好セーブする四日市商のキーパー舟久保。一方、四日市商の波状攻撃を厳しいDFで食い止める佼成。常にリードしていた四日市商を22分に佼成が逆転し、逆に2点をリード、10対8とする。その後、両チーム退場者を出しながらも大きく崩れることなく、12対11、佼成がわずか1点リードで前半を終える。後半3分、四日市商8番の退場を機に、佼成2番が3点を連取し、前半から更に差を広げる。四日市商は早々にTOを要求する。佼成にも退場者が出るが、佼成リードの状況は変わらず後半15分で19対13となる。四日市商は佼成の堅い守りに得点できない我慢の時間帯が続く。後半20分で21対14佼成リード。最後は両チームとも連日連戦にやや疲れが見えてきたが、果敢なプレーが特に印象的であった。

2017年 3月 26日

記載者氏名 上畑 正樹

ジャパネット杯 平成28年度 第40回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男二

男子 ・ 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名	
小林秀峰高校	35	12	—	15	氷見高校
		18	—	15	
		0	—	3	
		5	—	5	
			—		
		7mTC			

岡山理科大附属に勝利した小林秀峰（宮崎）と、大体大浪商との接戦を制した氷見（富山）の対戦。

小林秀峰のスローオフで試合開始。先制したのは氷見、10番清水、13番安平の連続得点。対する

小林も6番甲斐のポストプレーなどで応戦し、9分まで3-3と互いに一步も譲らない。小林が2点

リードの時間帯が続くも、動きがあったのは22分、小林GK宮城が負傷、色増に交替。好セーブを見

せるも、終盤にかけて、氷見のスピードが上がる。13番安平、10番清水の連続シュートもあって、

逆転する。小林GK宮城が復帰するも、氷見の攻撃は力強く、15-12氷見のリードで前半終了。

後半立ち上がり、氷見2番畠山のカットインからのシュートに対し、小林も2番重山の右サイド

シュート。小林2番重山のサイドシュート、3番川端の7mTなどで5分には17-17となる。

その後、14分までGK中心に堅い守りで同点の時間帯が続く。終盤、点を取り合って延長戦へ。

延長前半、氷見14番平井、10番清水、5番朝野の連続得点、対する小林はシュートが決まらない。

後半にも得点を追加した氷見が、接戦を制し準々決勝へと駒を進めた。

29年 3月 26日

記載者氏名 小川 健三

戦 評 用 紙

男子

男子 ・ 女子 3 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

チーム名	総得点		総得点	チーム名
松山工業	22	[ 9 - 19 13 - 18 - - - 7mTC	37	藤代紫水

2 回戦で接戦をものにした松山工業に対し、1・2 回戦完勝の藤代紫水の準々決勝進出をかけた戦い。紫水スローオフ直後、No.4 櫻井のサイドシュートで先制。その後、No.5 河原のスピードある速攻、力感あるロング等の 5 連続得点で序盤の主導権を握る。一方松山工は、人とボールを素早く動かしDF の隙をつこうとするが、紫水の高いDF をなかなか崩せない。攻めあぐむ松山工のミスをつき、紫水はNo.1 4 榎本の速攻等で得点を積み重ねる。劣勢の中、松山工も粘りを見せる。No.5 浅川を起点に素早いパスを展開し紫水DF をすらし、ポストブロックからNo.6 西川がカットインシュートを決める等、必死に食らいつく。しかし、攻撃の手を緩めない紫水は1 8分3 4秒No.4 櫻井のシュートから5連続得点の時間帯を作る等、前半は終始紫水のペースで試合が進んだ。

後半、松山工西川のシュートで先制し流れを掴むかと思われたが、紫水河原の4連続得点で流れを渡さない。しかし、松山工No.7 キャプテン山本のトリッキーなシュートから3連続得点も、またも紫水河原のシュートで松山工へ来そうな流れを寸断する。その後も榎本・櫻井・又来らのシュートで得点を重ねていった紫水が、最後まで死力を尽くして立ち向かってきた松山工を振り切って準々決勝に駒を進めた。

2 9 年 3 月 2 6 日

記載者氏名 沖野 勝洋